



ES C情報

春季号



確証のワナ

当社ではこの4月に例年より多い6名の新社員を迎えました。この6名には若々しい感性と熱意、そして情熱をもって一日も早く優秀な技術者、また自己責任を全うできる社会人となることを期待しています。また、先輩諸氏には専門分野はもちろん、社会人としての常識、教養についても指導いただくようお願いいたします。さて、4月3日に行われた入社式で時間の制約上話すことのできなかつた、今後皆さんの生活の一助になると思われることを書かせていただきます。先輩諸氏も参考にして下さい。



北海道電気技術サービス(株)
代表取締役 安保 均

T君は、ダイエットを始めるにあたり、どの方法がよいか迷った結果、「ABC法」に賭けることにしました。それ以来、T君は毎朝、体重計に乗り、前日より体重が減っていると効果ありと微笑み、逆に増えた時には、この程度の変化はよくあることと気にしないようにしていました。こうして何ヶ月も体重が殆ど変らなかったのにT君は「ABC法」には効果があると思いついていたのです。つまりT君は『確証のワナ』の犠牲者なのです。『確証のワナ』とは、新しい情報を、自分の意見や信念に無理やり合わせて解釈する傾向のことを言います。つまり、自分の考えと一致しない情報（以下、反対の証拠）をフィルターにかけて見えないようにして自己の先入観を補強することです。「目を背けても真実はなくならない」とはイギリスの作家ハクスリーの名言です。また、アメリカの投資家W・バフェットも「人間がもっとも得意とするのは、自分の見方が変わらないよう新しい情報をフィルターにかけて取り除くことだ」と言っています。

『確証のワナ』の一般的な例として、血液型と性格の関係があります。人間の性格は血液型により決定されるものではなく、通常は様々な特徴を含んでいます。しかし、相手の血液型がA型だとわかると、A型の性格として知られている几帳面などの特徴ばかりが目についてしまい、結局「A型は几帳面である」という情報が正しいものであると認識してしまいます。また、インターネットの世界では、探している情報が真っ先に提供され、反対意見は自分のスクリーンにはまったく映りません。そうしてさらに偏った情報ばかり集めるようになり、自分と同じ考えを持つ集団の中で行動するようになっていきます。

では、どうすれば『確証のワナ』から逃れることができるのでしょうか。『確証のワナ』は当然、科学者にも働きます。科学者は『確証のワナ』を回避するために反対の証拠に注目するという手段をとっています。この方法は私たちの普段の生活の中でも有効で、ある情報が正しいかどうかを確認する場合には、反対の証拠を先に調べればよいのです。つまり、自分の意見や考えの正当性を証明するものを見つけるのではなく、自分の意見や考えの誤り（反対の証拠）を探すことです。T君が挑戦した「ABC法」では体重は減らず、効果はありません。また、血液型がA型でも几帳面ではなく、おおざっぱな人はいくらでもいます。『確証のワナ』を回避するには、自分が見たいと思っていること、信じていることだけ見る傾向にあるということを普段から自覚しておくことです。そして（容易ではありませんが）自分の考えに対して本当に正しいのか疑いを持つことが大切です。

新入社員の皆様へ

今年も当社に新入社員が6名入社しました。新入社員を迎えるということはとても嬉しく、また、立派な社会人に成長することを期待しています。新入社員の皆さんは恐らく自分では気づいていないと思いますが、私たち先輩から見るとピカピカに輝いている素晴らしい若者です。機械に例えるなら新品の車のように輝いています。

しかし、この若々しい素養を立派に活用するのも、見劣りさせてしまうのも本人の心がけ一つです。

専門分野の技術とともに社会人としての教養の習得も、これからは誰に教わるでもなく、自分自身で社内外の先輩を見習い自己研鑽を重ね、他人から信頼されるしっかりとした大人に成長して欲しいと思っています。

弊社は私が創業して以来、今年で46年目を迎えます。創業早期に新入社員として採用した社員は高卒も大卒もありますが、何れも定年退職を迎えており、これから数年後には、多数の優秀な先輩が定年退職を迎える見通しです。弊社は社会で必要とされている大切な電力の供給を支える仕事をしております。先輩たちの後を継ぎ、これからの未来を担う新入社員の皆様の成長を楽しみにし、また期待しています。

ただ、社会人、先輩と言っても年齢だけを重ねているだけで、内容が伴わない先輩も世の中には多く見かけます。

数年後、数十年後貴方はどのような社会人に成長していると思いますか？日々を漫然と過ごしては成長は遅々として覚束ないことでしょう。

会社として必要最低限の技術や教養は指導しますが、会社は学校と違います。自分で真面目に働き成果を挙げて、社会から信頼と評価をいただき、その結果、信頼に足る大切な人物となることができるのです。

今は若い君たちも、10年後には10年選手としてそれに相応しい風格を身につけて欲しいものです。それには日々の努力が欠かせません。日々を大切に過ごしてください。

会社も46年目。この間、お客様や多くの諸先輩のご指導とご配慮を頂きながら、今日を迎えています。創業よりお世話になった、数多くの先輩の中には既に他界した方も多くありますが、それぞれの方に対して感謝の念に堪えません。

会社も創立当初の初心を忘れず日々努力を重ね、今後もより良い会社に成長する努力をします。長年のご指導を頂きましたお客様に心より感謝いたします。今後とも宜しく願い申し上げます。



北海道電気技術サービス㈱
取締役会長 向井 隆

蘇牛発電所 発電機キュービクル取替他

蘇牛発電所の変電分離により遠方監視制御装置、発電機キュービクルの取替と、これに伴う制御盤の故障表示回路の改修、トランスジューサーの取替、通信架の変電所への移設による、通信線修繕工事を実施させていただきました。

冬期間の工事で切替作業中は、発電機停止状態により所内変圧器が使用できない為、所内電源を変電所の仮設キュービクル所内変圧器より供給してもらいましたが、容量が足りないため、発電所所内の暖房には使用できず、非常に寒い状態のなかでの作業が続きました。

釧路は例年寒さが厳しいですが、雪が少ないという土地柄ですので、天候はあまり心配しておりませんでした。しかし変電所との連絡ケーブルの布設が大雪の為に延期になったり、キュービクル搬入日も大雪のため除雪に時間がかかり、搬入時間が遅れるなど若干のアクシデントがありました。

作業については、キュービクル搬出、搬入等の重量物を扱う危険な作業や、試験と改造作業が輻輳したり、キュービクルが通常の変電所で使用されている仕様とは違うなど心配していた事が多くありましたが、各作業とも予定通り無事故、無災害で終了する事ができました。

今回の作業では、私自身久しぶりの元請工事となりましたが、同時期に発電所の工事だけでなく、変電所側の工事、配電、土木関係の工事も行われており、事前に確認しておかなければ、道路が通れなくなる事もあり、現地売却、仮設ハウス搬出等の日時の設定も、他工事の状況等をよく確認する必要のある事を学びました。

2か月半の工事期間でしたが、現場で工事を施工して頂いた樋口電気工業の皆様には、大変お世話になりました。

最後に、本件をご担当いただきましたほくでんエコエナジー釧路管理所 電気課副長宇野様、電気課の皆様には厚くお礼申し上げます。

技術部 電力システム1課 鈴木 敏文

北海道企業局 苫小牧工水第二施設 監視制御光伝送装置更新工事

2017年3月 本工事が完了し、私は団結することの大切さをあらためて実感しました。

今回の工事で更新した光伝送装置は、各ローカルの情報を光ケーブルで伝送し、管理棟で集約した情報をタッチパネルで一括監視する装置です。

他メーカー装置とのインターフェイスがあり、様々な情報をやりとりしています。

光伝送装置は工業用水の安定供給に欠くことのできない重要な設備であり、大きなプレッシャーを感じながら業務をスタートしました。

設計業務では、既設設備の不明点や仕様について協議が必要な点があり、かなり時間と労力がかかりましたが、企業局担当殿との協議・現地調査を重ねて順調に進めることができました。

また、現地作業では既設盤の改造や複雑な情報切替の連続であり、休日を返上しての作業もありましたが、作業前に綿密な打合せを行い、関係者全員が一致団結し無事完了することができました。

最後に関係者の皆様、本当にありがとうございました。

この場をお借りして感謝申し上げます。

技術部 制御システム2課 石川 裕一郎

感謝状を頂きました

去る3月14日、北海道電力株式会社 苫小牧統括電力センターより、変電グループリーダー大森様と変電グループ副長 白幡様が来社され、昨年の幌満第二変電所冠水における災害復旧作業時の対応に対し、感謝状をいただきました。

感謝状の授与とともに、災害復旧時の迅速な対応の難しさや苦労等について、改めて労いの御言葉をいただき、大変光栄に感じております。今回感謝状を頂きましたことにより、当社としても北海道の電力安定供給に貢献するための責務を改めて強く感じたところです。

最後に、貴重なお時間を割き来訪していただきました大森様、白幡様にはこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。弊社もより一層真摯に業務に励んでまいります。今後とも何卒宜しくお願ひ申し上げます。



左:北電(株)苫小牧統括電力センター 変電 GL 大森様 右:弊社安保

営業部 田村 友一

平成29年電気記念日表彰式(傘寿功労者表彰)

平成29年3月24日に札幌グランドホテル グランドホールにおいて、日本電気協会北海道支部主催による電気記念日表彰式が執り行われました。例年であれば3月25日の電気記念日に行われるのですが、今年は25日が土曜日のため、前日の24日の開催となりました。

本表彰式においては北海道支部会長の佐藤佳孝様より、傘寿功労者表彰、人材育成功労者表彰、考案者表彰が行われました。

傘寿功労者表彰は北海道支部としては73名が推薦されておりましたが、当日は残念ながら欠席の方も多く45名の方が出席となりました。出席者には佐藤会長より表彰状と記念品が贈呈されました。なお、弊社からは会長の向井隆が表彰を受けられました。

表彰式後の記念講演では、医学博士で日本医療大学総長の島本和明様より「長寿社会日本での課題 ~健康寿命延伸を考えよう~」という演題でお話をいただきました。日本では高齢になるにつれ高血圧になる人が多く、それにより病気を誘発することが多いとのことでした。いろいろ考えさせられることが多い講演内容でした。これを機に食事の減塩に気を付けたり適度な運動を続けるなど個々人が健康について改めて考えていただき、多くの方が今後も健康であり続けることができればと思います。

講演会後は会場を同ホテルの金枝の間に会場を移し祝賀会が行われ、出席者同士終始和やかに懇談されておりました。

表彰された皆様に対するお祝いと感謝を捧げるとともに、今後の皆様のご活躍、ご発展を祈念いたします。



表彰式の様子（左：日本電気協会北海道支部会長 佐藤佳孝様 右：弊社 向井隆）

専務取締役 向井 潔



編集後記



私事ですが、ついこの間生まれたと思っていた子供が、今年4月に小学校へ入学しました。月日の経つことが日々早く感じられ、元気に育ってくれていることに感謝の日々です。

今年は新入社員が6名入社し先日入社式を行いました。緊張の中、配属辞令を受け取り、自己紹介を行う姿は初々しく立派に勤めておりました。

会社に勤めている以上、皆様それぞれに入社した時があり、期待と不安を胸に抱き、緊張したことを覚えている方もいるでしょう。私も遠い記憶を思い返すと緊張した事だけははっきりと覚えています。

春を過ぎ、夏が来て、秋となり、冬を迎え、また春が来るころには立派な社会人となっていることを願っております。先輩から色々なものを吸収し、それを自分の力に変えまた次に入ってくるであろう新入社員に伝える。そうしたことが自分の成長につながり、会社もまた成長していきます。

教育は、教える方も、教わる方も大変な労力を必要とします。教わったことを少しでも早く身につけられるよう頑張っていきたいと思います。

業務管理部総務課 山崎 利幸

ESC 情報NO. 141 春季号



発行所 北海道電気技術サービス株式会社
〒069-0832

北海道江別市西野幌120-8

TEL(011)384-8888 FAX(011)384-8889

<http://www.hesc.co.jp/> e-mail:hesc@hesc.co.jp

発行者 向井 隆

編集者 業務管理部